



舍利

文化芸術による子供育成総合事業 —巡回公演事業—

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

令和3年度

文化芸術による子供育成総合事業 —巡回公演事業—

公益財団法人 片山家能楽・京舞保存財団

〈能楽公演〉文化庁



文化庁



舍利

第一部

絵本語り「舍利」

能の絵本「舍利」(文・片山清司 絵・小田切恵子)の絵をスクリーンに映し、絵本の朗読をします。後で能を鑑賞する時の大きな手引きになります。

第二部

謡と仕舞の発表

児童・生徒のみなさんに、能舞台の上で謡と仕舞を発表していただきます。プロの能楽師との共演になります。

第三部

能「舍利」

片山九郎右衛門など、能楽界の第一線で活躍する能楽師が出演し、わかりやすく楽しい能の公演をいたします。また、京都から能舞台を運び体育館を能楽堂に変身させます。

(あらすじ)

出雲の国から都へ出てきた僧が、お釈迦様の牙舍利(お釈迦様の歯)をおさめていることで名高い泉涌寺にやってきました。僧が舍利を拝んで感激していると、近くに住むという男がやってきて、一緒に拝みます。そして、仏舎利のありがたいいわれを語っていましたが、にわかにかがき曇り、お堂の上に雷光が走り出し、その男は、いつのまにか鬼の姿となり「自分は、昔お釈迦様の歯を盗んでにげた足疾鬼である」といつて牙舍利を奪い天井を蹴破って虚空へ飛び去ります。僧は、寺男から守護神の韋駄天の話を聞き、二人で祈ると韋駄天があらわれ、足疾鬼を追いかけ、ついに牙舍利を取り返します。



能楽とは…

能楽は今から約六〇〇年前の室町時代に完成されました。音楽劇の「能」と喜劇の「狂言」を合わせて「能楽」と呼びます。

現存する中で世界で一番古い歴史を持つ舞台芸術で、歌と舞と音楽からなる劇で日本の中世に生まれたミュージカルです。演目は二五〇曲以上有り今でも新作能などが作られています。

今回、見ていただく「舍利」は室町時代の軍記物「太平記」から取材をしたものです。

能楽は二〇〇一年、ユネスコの世界無形文化遺産に宣言されました。

お囃子とは…

笛、小鼓、大鼓、太鼓の四つの楽器からなる能のオーケストラです（「敦盛」は大小物と呼ばれ、太鼓は入りません）。笛は、合奏をしないため一本一本音程が違います。

小鼓と、一回り大きな大鼓は桜をくり抜いた胴に、馬皮でできた皮を麻紐で組み立てます。同じ構造ですが性格は正反対に作られ、乾燥した堅い音を出す大鼓に対して、小鼓は柔らかい音を出します。

太鼓は牛の皮で出来た二枚の皮を、ケヤキの胴にかけ麻紐で組み立て、台に置き二本のバチで打ちます。

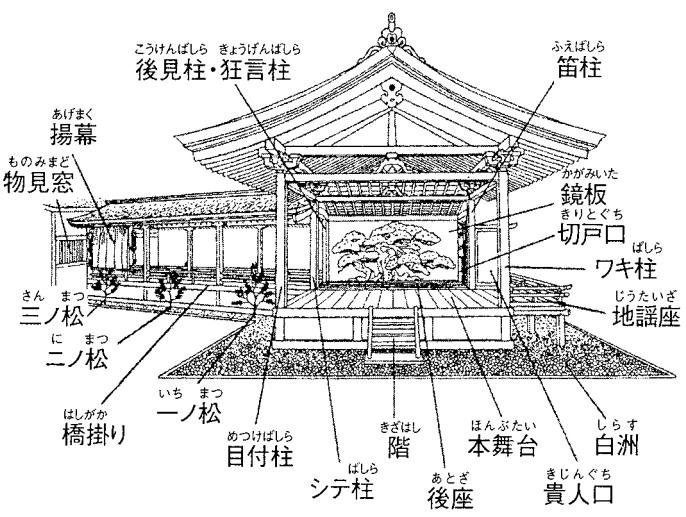
楽譜は縦書きで、かけ声によって拍数と気合いなどの連絡を取り合うように出来ています。

舍利について

この絵本の題材となった能「舍利」は、京都の東山山麓に今もある泉涌寺が舞台となっています。そこは一番大切な、お釈迦様の牙舍利（お釈迦様の歯）が安置されています。

釈迦入滅ののち、そのことをしのび、あとを慕う人々はもちろん、世界じゅうのさまざまな人が時代をこえて争い、分骨を望みました。そのためにお釈迦様の骨はいくつにもいくつにも、小さく小さく分けられてゆき、ついには米粒ほどになってしまいました。お寿司のご飯を「シャリ」と呼ぶのはここからきています。泉涌寺の舍利は大きさもさることながら、お釈迦様が法話をなさるそのお口に近い「歯」ということもあって、一等大事なお舍利として信心を集め、大切にされてきました。

能楽の舞台





がつついたち
10月1日は
こく さい おん がく ひ
「国際音楽の日」です

1977年にユネスコの要請で設立された
国際音楽評議会という会議で、
翌年の1978年から毎年10月1日を、
世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり
交流を深めていくために「国際音楽の日」と
することとしました。日本では、
1994年から毎年10月1日を
「国際音楽の日」と
定めています。

だんたいしょうかい かたやまけのうがく きょうまいほぞんざいだん
◎団体紹介：片山家能楽・京舞保存財団

観世流片山家は世阿弥が大成した能の伝統を京都で受け継いでいる家柄。
明治期に至るまで「禁裏御能」と呼ばれる、御所において天皇が主催される能
に奉仕するという大役を受け持っていました。明治期に六世片山九郎右衛門
と京舞井上流三世家元井上八千代の結婚とともに、一つ屋根の下に「能」と
「京舞」という二つの伝統芸能が共存することとなりました。能・京舞の
技術的な伝承だけでなく数多く保存されている能面や能装束なども後世によ
り良い形で残していくために財団法人を設立。その後、公益財団法人の認可
を受け現在に至ります。四世井上八千代（京舞）、九世片山九郎右衛門（片山
幽雪・能楽）、五世井上八千代（京舞）と、親・子・孫の三代にわたり三人の
人間国宝を輩出しています。

日本画制作 小田切恵子
映像技術協力 立命館大学アートリサーチセンター
舞台監督 前原和比古
企画・制作 公益財団法人
片山家能楽・京舞保存財団

公益財団法人 片山家能楽・京舞保存財団

〒605-0088 京都市東山区新門前通大和大路東入西之町224

TEL 075-551-6535 FAX 075-532-2841

URL: www.arc.ritsumeimei.ac.jp/k-kanze/ E-MAIL: k-zai@drive.ocn.ne.jp